



⑮ 日本国特許庁(JP)

⑯ 実用新案出願公開

⑰ 公開実用新案公報(U)

昭63-171987

⑱ Int. Cl.⁴

H 01 R 31/08

識別記号

庁内整理番号

P-6447-5E

⑲ 公開 昭和63年(1988)11月9日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑳ 考案の名称 識別用コネクタ

㉑ 実 願 昭62-63480

㉒ 出 願 昭62(1987)4月28日

㉓ 考 案 者 野 辺 浩 明 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社
内

㉔ 出 願 人 富 士 通 株 式 会 社 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

㉕ 代 理 人 弁 理 士 青 木 朗 外 3 名

明 細 書

1. 考案の名称

識別用コネクタ

2. 実用新案登録請求の範囲

1. コネクタ本体上に多数のピンを突出して有し、各ピン間をショートバーで連結し、該ショートバーは選択的に切断可能であって、切断位置により識別されることを特徴とする識別用コネクタ。 5

2. 前記ピンは2列に配設され、各列毎に各ピンの先端が前記ショートバーにより連結されたことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載の識別用コネクタ。 10

3. 考案の詳細な説明

〔概 要〕

コネクタ本体上に突出する多数のピン群をショートバーにより連結し、ショートバーを切断することにより切断位置に応じてコネクタによる情報識別及びプログラム等の選択設定を可能とした識別用コネクタ。 15

20

(1)

867

〔産業上の利用分野〕

本考案は電算機システム等における装置の各種情報を識別するための識別用コネクタに関する。

電算機システムにおいて、所定機能のプログラムを実行する回路を形成した多数のプリント板がブロックユニット内に收容される。このブロックユニット内には識別用のプリント板が收容されシステムの種類、製造番号、機能その他各種情報を収納している。この識別用プリント板はさらに、システムが複数のプログラムを有する場合に、1つのプログラムを設定しそのプログラムの性能（機能）を特定するために用いられる。ブロックユニット内のこのようなプリント板の前端部には識別用のコネクタが設けられシステムの各種情報及びプログラムを設定しかつ識別を可能とする。

〔従来の技術〕

従来の識別用コネクタを第2図に示す。コネクタ本体1上に多数のピン2が2列に突出して設けられる。設定を行う場合には、ショートプラグ4

(2)

868

により2列の対向するピン同士をショートさせる。
ショートさせるピンの位置及び数を選定すること
により各種の設定が可能となる。例えば50ピン
コネクタ（1列25ピン）ではショートプラグに
より25個所のうち任意の位置数を選択して設定
できるため（ $2^{25} - 1$ ）通りの組合せができる。

5

〔考案が解決しようとする問題点〕

前記従来の識別用コネクタにおいては、ショ
ートプラグを必要数準備しなければならず設定作業
も面倒であり、また、設定後に樹脂等でショ
ートプラグを埋設して設定位置を固定することができ
ないため（ショートプラグの短絡不良のおそれの
ため）、設定後にショートプラグの位置を変えて
別のプログラムに変更してプログラムの不正使用
が行われるおそれがあった。

10

15

本考案は上記従来技術の問題点に鑑みなされた
ものであって、簡単な構造で容易に多数の設定を
可能としかつ設定後に変更を不可能としてプログ
ラムの不正使用の防止を図った識別用コネクタの

20

提供を目的とする。

〔問題点を解決するための手段〕

この目的を達成するため本考案では、コネクタ本体上に多数のピンを突出して有し、各ピン間をショートバーで連結し、該ショートバーは選択的に切断可能であって、切断位置により識別されることを特徴とする識別用コネクタを提供する。

5

〔作 用〕

設定事項の内容に応じて各ピン間を連結するショートバーを切断し設定内容を識別可能とする。

10

〔実施例〕

第1図(a)は本考案実施例の斜視図、第1図(b)はその使用説明図である。コネクタ本体1上に多数のピン2が2列に突出して設けられ、各列のピン同士は先端でショートバー3により連結されている。設定を行う場合には、設定事項の内容に応じてショートバー3の位置を選択して(b)

15

20

(4)

870

図 A , B、のようにショートバー 3 を切断する。
切断位置、及び切断位置の数は任意である、例えば 50 ピン（1 列 25 ピン）のコネクタの場合切断箇所は 48 個所で設定の組合せは $(2^{48} - 1)$ 通りである。これは前述の従来例に比べ 2^{23} 倍である。必要箇所のショートバー 3 を切断して設定を終了した後、ピン全体を樹脂等によりモールドして埋設し設定（切断）位置を覆いかつ変更不能とする。

5

10

〔考案の効果〕

以上説明したように、本考案においては、予めコネクタのピン群をショートバーで連結してショートさせておき、設定情報に応じて選択されたピン間のショートバーを切断して設定を行っている。従って、設定の組合せが大幅に増加し、また設定用のショートプラグが不要となり簡単な構造で設定作業が容易になる。また、設定終了後にピン全体を樹脂で埋設することが可能となり設定内容の読取り及び変更を不能とし、設定プログラム以外

15

20

の装置のプログラムの不正使用が防止される。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案実施例の構成説明図、第2図は従来技術の説明図である。

1…コネクタ本体、 2…ピン、 5
3…ショートバー。

実用新案登録出願人

富士通株式会社

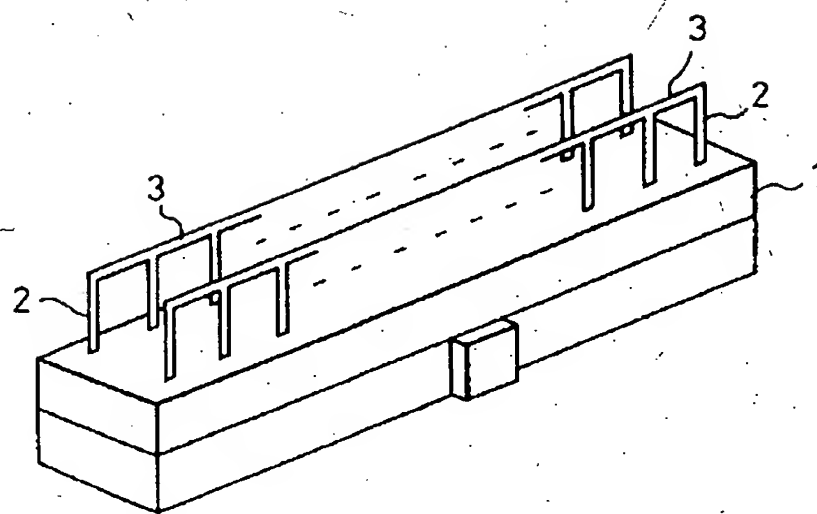
実用新案登録出願代理人

弁理士 青 木 朗

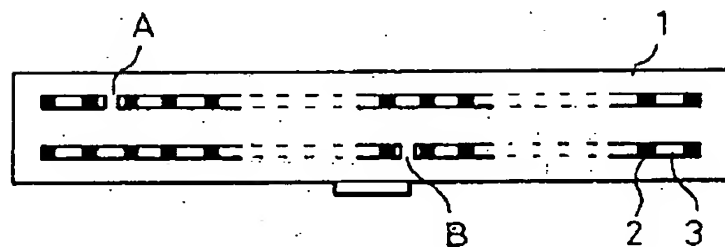
弁理士 西 舘 和 之

弁理士 内 田 幸 男

弁理士 山 口 昭 之



(a)



(b)

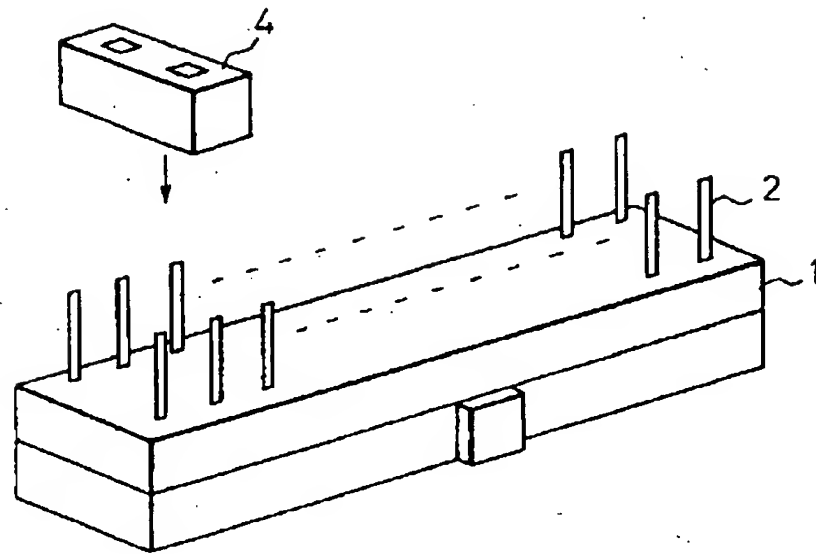
本考案実施例の構成説明図

第 1 図

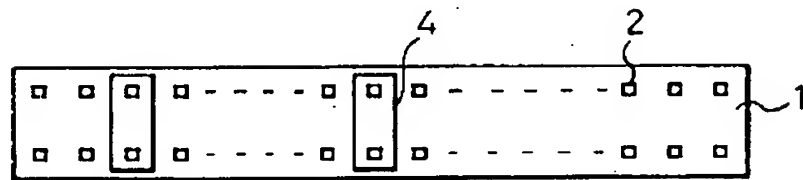
- 1・・・コネクタ本体
- 2・・・ピン
- 3・・・ショートバー

873 出願代理人
弁理士 青木 朗

実開 63 - 171987



(a)



(b)

従来技術の説明図

第 2 図

- 1・・・コネクタ本体
- 2・・・ピン
- 4・・・ショートプラグ

874 川 願 代 理 人
弁理士 青 木 朗

実開 63 - 171987